

第四錦林小学校（2年）国語科「どうぶつ園のじゅうい」京都市動物園からの遠隔授業

10月20日（月）、第四錦林小学校の2年生が国語「どうぶつ園のじゅうい」の学習で、第3校時にテレビ会議システムを使って、京都市動物園の獣医師である和田先生から遠隔授業を受けました。同校は生活科の学習で京都市動物園のアジアゾウの美都のふんを発酵させた肥料を使い、野菜を育てる学習活動に取り組んでおり、和田先生との遠隔授業も2回目となりました。

この単元は、よこはま動物園ズーラシアに勤務されている獣医師の植田美弥先生が書かれた獣医の一日の仕事に関する文章を読んで、「時間的な順序を考えながら、動物園の獣医の仕事やその仕事をするわけを読み取ることができるようにする。」「文章を読んで、強く興味をもったことや疑問に思ったことなど大事な言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、感想を伝えることができるようにする。」という目標に向けて学習を行います。生活科で取り組んできた京都市動物園との連携学習をベースに、国語科でも子どもたちにとって、より身近な獣医師である和田先生にお話を聞かせていただくというものでした。

『みとちゃんの日について聞き取ることを通して、獣医の仕事を知り、それぞれの思いを育む。』担任教員は、このような意欲的な授業デザインを計画して本時に臨みました。

和田先生にみとちゃんの朝のあいさつから始まり、就寝に至るまでの一日を教えてもらい、メモをみじかくまとめて書く。という活動でしたが、2年生にはなかなか難しいことだったのか、何度も和田先生に聞き直す必要がありました。また、先生がお話された内容を全部書こうとしますので、時間がかかってしまいます。本単元の学習活動では文章を読むことに重点が置かれますが、本時のように聞き取って記録するという学習活動についてはもうひと工夫が必要なようです。一方、テレビ会議で表示されるみとちゃんの写真には「めっちゃ、うれしそう！」また、餌のバケツをみとちゃん自身が運ぶことについて「へー、頭いい」という、リアルな反応がありました。



さらに、獣医のことを質問する場面では、授業で学習した内容をもとに、京都市動物園には何人の獣医さんがいるか。毎日朝から動物を見てまわるのか。仕事の終わりにはお風呂に入ったり、一日のことを書いたりするのか（そもそも、お風呂はどこにあるのか？）。赤ちゃんのいる動物にきかいを当てたりするのか。動物はほんとうに痛いところを隠そうとするのか。などなど、多くの質問が飛び出しました。

こうした遠隔学習が単元の目標を達成するための補助的な教材になり、国語科と生活科が相互に高め合えるような学習となるためには、もっと多くの実践研究が必要だと思われます。

学校側のパソコンの不調と、インターネット回線が混み合っていたことが原因で遠隔授業の開始が約15分遅れてしまいました。また、画像のデータサイズが大きく、画像送信時にはテレビ会議の映像や音声途切れる状態になったりしてしまいました。教材の送受信についても考慮が必要であることを感じました。

最後に、みんなで考えたこととして、夏野菜に引き続き、冬野菜を作ってみとちゃんにあげたい。そのために堆肥を少し分けてもらうことを和田先生にお願いしたところ、先生は快く了解していただきました。